

事業報告

理事長あいさつ

2024年度は、コロナ禍から社会活動が回復していく中で、当財団も計画した事業をほぼ予定通りに遂行することができました。これは関係各位のご理解とご協力の賜物であり、改めて心より御礼を申し上げます。

2024年度事業のトピックスを当財団の3本の中核領域毎に以下ご報告いたします。

一本めの中核領域は「学術・科学技術の振興」です。「倉田奨励金」は第56回を迎え、昨年度279件を上回る342件ものご応募をいただきました。厳正な選考によりそのうち39件を助成させていただきました。年々狭き門となってしまっていますが、研究者が将来的に第一線で活躍されるための一助になればと願っています。

「日立財団科学技術セミナー」は、東京慈恵会医科大学 疲労医学講座特任教授の近藤一博先生に『疲労とは何か～すべてはウィルスが知っていた～』と題し講演いただきました。近藤先生は疲労科学研究の第一人者であり多くの業績をあげられています。当日はオンライン形式で行われ、543名の方にご聴講いただきました。この聴講者数は、当財団のオンラインセミナーの中で最大級の規模となっています。

「日立財団アジアイノベーションアワード」は、ASEAN6か国(カンボジア、インドネシア、ラオス、ミャンマー、フィリピン、ベトナム)の社会課題解決に資する科学技術イノベーションの研究および研究開発の成果に対する表彰事業です。26大学・研究機関からの推薦による応募を受け付け、14件を表彰しました。あわせて、事業認知度向上とアワード既受領者、以前取り組んでおりました日立スカラーシップ事業の卒業生とのネットワーク維持を目的に毎年各国を訪問しています。今回はフィリピンを訪問し交流を図ることができました。さらには、スカラーシップ卒業生とアワード受領者間のコミュニケーション促進を図るメールマガジンの配信も始めています。

2020年に日立製作所並びに同社役員や社員、グループ会社役員等からの寄付により設立された「日立感染症関連研究支援基金」は、3か年の研究プロジェクト終了を迎え、研究助成された5件の成果報告を国際シンポジウムとしてハイブリッド形式で開催しました。

二本めの中核領域は「人づくり」です。「日立みらいイノベータープログラム」では、関東地区と大分県を含む5つの小学校において出張授業を行いました。2016年度事業開始から9年間で約30の小学校でプログラムを実施することができました。

「理工系女子応援プロジェクト」は、第10回パイオニアトーク&ワークショップを、東京工業大学(当時)で、同大学のゼロカーボンエネルギー研究所 石塚知香子 助教と、OECD原子力機関 ウィリアム・マグウッド事務局長をお迎えし、「未来のエネルギーについて」女子中高生50名と考えました。

三本めの中核領域「多文化共生社会の構築」では、電子ジャーナル「日立財団グローバル ソサエティ レビュー」2号、3号を発刊しました。引き続き、多文化共生に関連する学術分野において、新たな発想や視点の醸成に貢献し、日本における多文化共生社会への理解と発展に寄与してまいりたいと思います。

今後もサステナブルな社会の構築、日本の国民生活の向上、ひいては国際社会の発展の一助をになうべく、当財団の強みを活かした社会貢献事業を進めてまいります。

倉田奨励金（研究助成事業）

2025年3月3日（月）、経団連会館において、2024年度（第56回）倉田奨励金贈呈式を開催しました。今年度は昨年度を上回る342件の応募がありました。厳しい採択率の中、厳正な審査により採択された39名の研究者に対して奨励金が贈呈されました。

倉田奨励金は、日立製作所第2代社長の倉田主税が提唱し創設した研究助成金で、グローバルな社会課題解決力を担う次世代の研究者による自然科学・工学研究、および高度科学技術社会に通底する人文・社会科学研究を対象とし、助成するものです。

贈呈式では選考委員長の花木啓祐氏から今年度の選考経過報告があり、日立財団内藤理事長（当時）から、受領者ひとりひとりに贈呈書を手渡しました。続いて各部門・分野の代表者にご登壇いただき、今後の抱負などをスピーチしていただきました。贈呈式に続いて、研究期間を終えた受領者による研究報告会を開催し、代表者4名に研究成果を発表いただきました。

■ 2024年度（第56回）倉田奨励金 助成一覧、贈呈式・研究報告会
<https://www.hitachi-zaidan.org/topics/topics112.html>



■ 研究報告会

- 発表1 エネルギー・環境分野／玄 大雄氏（中央大学）
エアロゾルの気候影響の解明を目指した電気力学天秤の開発
- 発表2 都市・交通分野／倉田 陽平氏（東京都立大学）
膨大な位置情報付きツイートから地域課題は見つかるか？
- 発表3 健康・医療分野／三村 維真理氏（東京大学）
急性腎障害から慢性腎臓病移行へのエピジェネティックメモリーの病態解明
- 発表4 人文・社会科学部門／寺西 勇生氏（慶應義塾大学）
製造や販売管理の技術革新がもたらす製品サイクルの短期化とデフレの関係
—大規模な製品価格データを用いた検証—



日立財団科学技術セミナー（啓発事業）

2024年11月30日（土）、第20回 日立財団科学技術セミナーを開催しました。

今回のテーマは「疲労」。疲労科学研究の第一人者、近藤一博先生（東京慈恵会医科大学 疲労医学講座 特任教授）を講師にむかえ、疲労の生理的メカニズムを分かりやすく解説いただきました。

- 実 績：参加者 550名（オンライン：zoom ウェビナー）
- テー マ：「疲労とはなにか～すべてはウイルスが知っていた」
- 開催日時：2024年11月30日（土）13:30～15:00
- 講 師：近藤一博氏 東京慈恵会医科大学 疲労医学講座 特任教授
- 開催報告：<https://www.hitachi-zaidan.org/activities/seminar/topics/2412001.html>



講演中の近藤氏

日立財団アジアイノベーションアワード（表彰事業）

日立財団アジアイノベーションアワードは、ASEANの社会課題解決と持続可能な社会実現に資する科学技術イノベーションを促進するために、2020年度より開始した表彰事業です。

本アワードでは、持続可能な開発目標（SDGs）への貢献を目的として、あるべき社会像を描き、科学技術の社会実装を計画に入れた優れた研究および研究開発において、画期的な成果をあげ、明らかに公益に供したと思われる個人またはグループを表彰します。

対象大学から推薦による応募を受け付け、厳正なる審査の結果、14名の受賞者が選定されました。

■ 2024年度（第5回）日立財団アジアイノベーションアワード受賞者
<https://www.hitachi-zaidan.org/topics/topics110.html>



最優秀賞



環境にやさしい養殖魚病害防除とバイオ肥料生産のための海藻の廃棄物ゼロプロセス

Dr. Alim Isnansetyo ガジャマダ大学



優秀賞



フルフルール製造および
廃水処理への応用を目指した
バイオマスからの
ナノマテリアル合成

Dr. Hieu Huu Nguyen
ホーチミン市工科大学



環境革新型複合製品
としてのジオポリマーと
アルカリ活性材料

Dr. Michael Angelo Baliwag
Promentilla
デ・ラ・サール大学



ベトナム固有種薬草由来の
医薬製品の研究開発

Dr. Nhung Ai Thi Nguyen
フエ大学



テンペ産業の
副産物を利用した
マイコプロテインの生産

Dr. Rachma Wikandari
ガジャマダ大学



奨励賞

機械化学および表面工学（MCS）のアプローチを活用した高活性金触媒と
バイオマスベースのナノ複合材料の開発

Dr. Dien Xuan Luong ハノイ工科大学



アンサンブル予報を用いた
インドネシアの気象予測改善による気候レジリエンスの強化

Dr. Heri Kuswanto スラバヤ工科大学



感染対策と免疫調整のための
多用途の生体機能化医用材料の開発

Dr. Ika Dewi Ana ガジャマダ大学



世界のメタン収支に及ぶ
フィリピン湖沼の影響度の理解

Dr. Milette Mendoza Pascual アテネオ・デ・マニラ大学



ラオス・ルアンプラバン県における豚の飼育による
環境・気候変動に対する豚ふん尿汚染の管理

Dr. Noupphone Manivanh スファヌボン大学



コメ生産・水産養殖の
持続可能性に向けたエコ戦略

Dr. Phuong Nguyen Xuan Vo トンデックタン大学



持続可能な紙生産に向けた
バクテリアナノセルロースへの製紙スラッジの変換

Dr. Quan Dinh Nguyen ホーチミン市工科大学



大豆かすと大豆残渣の高付加価値化による
カンボジア産大豆イノベーション

Dr. Reasmei Tan カンボジア工科大学



ベトナム産農産物による
健康への利益と持続可能な植物性製品の開発

Dr. Trang Thu Vu ハノイ工科大学



日立感染症関連研究支援基金（研究助成事業）

2025年2月26日（水）、日立感染症関連研究支援基金 国際シンポジウム～COVID-19 パンデミックを契機とした感染症対策への取り組みと学び～を開催し、会場53名、オンライン184名の方にご参加いただきました。

日立感染症関連研究支援基金は、COVID-19 禍への対処において顕在化したさまざまな問題をエビデンスに基づき学術的に調査、分析、考察し、その知見を国際的に共有することをめざす研究に対して助成するもので、株式会社日立製作所ならびに同社役員や従業員、グループ会社役員からの寄付によって設立されました。助成対象研究プロジェクト5件を採択後、2021年12月から3年間にわたり研究活動が行われました。

国際シンポジウムでは、5件の研究プロジェクト代表者が、3年間の研究成果を発表し、さらなる研究活動や社会実装への意気込みを語られました。

■ 国際シンポジウム開催報告 <https://www.hitachi-zaidan.org/activities/fundsupport/topics/2503001.html>



日立みらいイノベータープログラム（出張授業）

2024年度も教育委員会・小学校と綿密に連携を図り、5校に対し、本プログラムを実施しました。各学校の講師として日立グループ9社、53名の方にご参加いただきました。

■実績：5校13クラス 小学校受講者388名／講師53名

■開催期間：2024年9月～12月

■実施校と講師派遣元

実施校	講師派遣元
大分県 豊後高田市立高田小学校	(株)日立アカデミー、(株)日立パワーソリューションズ、(株)日立製作所
茨城県 日立市立仲町小学校	(株)日立アカデミー
千葉県 柏市立光ヶ丘小学校	(株)日立アカデミー、(株)日立ソリューションズテクノロジー、(株)日立ソリューションズ、(株)日立製作所
千葉県 習志野市立鷺沼小学校	(株)日立アカデミー、(株)日立ソリューションズ、(株)日立ソリューションズクリエイト、(株)日立ソリューションズテクノロジー、(株)日立産機システム
東京都 渋谷区立上原小学校	(株)日立社会情報サービス、(株)日立医薬情報ソリューションズ、(株)日立製作所



理工系女子応援プロジェクト（啓発事業）

2024年7月20日（土）、東京工業大学（現 東京科学大学）デジタル多目的ホールにおいて、「未来を変える理工系女子のお仕事～女性が活躍するエネルギー分野について～」と題し、パイオニアトーク&ワークショップを開催しました。女子中高生50名と、付き添いの保護者17名にご参加いただきました。

パイオニアトークVol.10 ゼロカーボンエネルギーについて教えてください！～わたしたちの正しい理解が未来をつくる～

東京工業大学（現 東京科学大学）ゼロカーボンエネルギー研究所 助教 石塚 知香子氏

講演

Women in Energy - the Need and the Opportunity（女性が活躍するエネルギー分野について～未来を変える女性のお仕事～）

経済協力開発機構／原子力機関（OECD／NEA）事務局長 ウィリアム・マグウッド氏（同時通訳）

ワークショップ

エネルギーの未来を考えよう！ 東京工業大学（現 東京科学大学）ゼロカーボンエネルギー研究所 助教 石塚 知香子氏

多文化共生社会の構築

日立財団グローバル ソサエティ レビュー（啓発事業）

本ジャーナルは、多文化共生に関連する学術分野の有識者が相互に専門性を生かし、有機的な交流を図るためのプラットフォームとして、学術分野における新たな発想や視点の醸成に貢献することを目的に発行しています。

2024年6月に発行した第2号では「個から考える多文化共生」をテーマに、個のストーリーについて、当事者の方のお考えや活動、さまざまなご経験を踏まえてのメッセージなどをご紹介しますとともに、書籍解説や客観的なデータに基づいた分析なども掲載しています。

2024年12月に発行した第3号では「Art × 多文化共生」をテーマに、ドキュメンタリー映画上映会&公開インタビュー、戯曲、論文、エッセイ、インタビューなど、Artを通じた多彩な視点から多文化共生を考えました。

<https://www.hitachi-zaidan.org/global-society-review/index.html>



グローバル
ソサエティレビュー